

自然教室だより

4月・春爛漫の奈良公園 桜見物 報告

辻本 信一

昨年は思いもよらぬコロナ禍のため、一度も自然観察会を実施することなく貴重な一年間を棒に振ってしまいましたが、今年は満を持して4月5日(月)コロナ対策として昼食を挟まない午前中のみの観察会を、春爛漫の奈良公園にて全員マスク着用のもと実施いたしました。

二日前までの雨の予報は皆さまの熱意が通じ見る見る好転。当日は天候にも恵まれ、会員のお友達1名を含む総勢17名の方々にご参加いただきました。



【行基像前に集合】

最初に目指したのは県庁東にある東大寺知足院より移植されたナラノヤエザクラ純正種とその碑。今年は温暖化の影響もありソメイヨシノはじめ各種桜の開花は10日ほど早まりましたが、カスミザクラを起源とするこちらの桜はまだ蕾の状態。とはいえ、幼木ながら天然記念物としての威厳が感じられました。



【ナラノヤエザクラの前で】

そこからは目と鼻の先、京街道沿いの「みどり池園地」南側ではこの時期満開のナラノココノエザクラの花が間近で観察できました。

ガク片10枚と一風変わっているのが目印。花の中央をよく見ると雄蕊が花弁化している様子も観察できました。



【ナラノココノエザクラの前で】

途中、依水園近くの民家では堀越しにムベとミツバアケビの花の競演が見られ、赤紫色の見事なハナズオウの花も見ることができました。

次に訪れたのは東大寺大仏殿北側にある名物のシダレザクラ。下の方の枝が鹿にかじられディアラインを形成し通称オカップザクラの名の由縁となっています。



【オカップザクラ】

その後東大寺大仏殿の回廊沿い石垣の上に生える可憐な春の草花を観察しながら南に移動。

東大寺東塔院跡の広場ではナラノココノエザクラの花びらが雪の如く降り積もり、花びらを食べる鹿とあいまって幻想的な光景を生み出し、休日にはたくさんのカメラマンが訪れる有名な撮影スポットとなっています。もう一つの撮影スポットは若草山正面、土産物屋の並ぶ通りの北の端を西に入った広場。こちらにも桜の花びら目当ての鹿がたくさん集います。



【桜の花びらと鹿の競演】

本日のトリは春日野園地北側の里桜。そこには4月中頃まで見ることのできる花びらに葉緑素が含まれ黄緑色を帯びた「御衣黄」、エドヒガンの特徴を有し壺状のガク筒を有す「八重紅枝垂れ」、大ぶりで見事な「紅豊」はじめ数々の里桜が艶を競います。



【春日野園地の紅豊】

今回も紙面スペースの関係で自然観察会での素晴らしい出会いを全て紹介することはできませんでした。奈良の自然にご興味のある方は、次回、観察会で是非お会いしましょう。

皆さまのご参加お待ちしております。